

増員署名

秋厚労ニュース

1時間で268筆

ナースウェーブ

5月18日(土)、2019秋田県医労連ナースウェーブが行われ、秋厚労4人を含む39人が参加。街頭署名行動で、現場の大変さや、医師・看護師増員の必要性を訴えました。

看護師の労働条件改善を世論に訴える機会

1989年10月、看護

師増員を求め、白衣の看護師1300人が銀座をパレードしました。同日の、東京都との交渉にも300人が参加。マスコミも大きく報道しました。これがナースウェーブの始まりです。

「頑張ってください」と次々に署名

18日は午後から、秋田市ぼろーどで街頭署名行動。天気も良く、買い物客や旅行者などが大勢行き交います。

参加者が白衣やゼッケンをつけ「医師・看護師確保のための国会請願署名にご協力をお願いします」と呼びかけると、足を止めて「頑張ってください」「苦労様です」と、次々に署名してくれれます。中には、看護師志望の学生も。友達と一緒に署名してくれました。

この運動を経て、1992年に看護師・介護士を増やすための枠組み「看護師確保法」「福祉人材確保法」

1時間で268筆の署名が集まり、参加した人は「面白かった。意外と書いてくれるんだね」と話していました。

大増員の陳情 21市町村が採択

署名の後、中通労働組合館へ移動しました。基調報告

学習会

腰痛対策で自分の体を守って

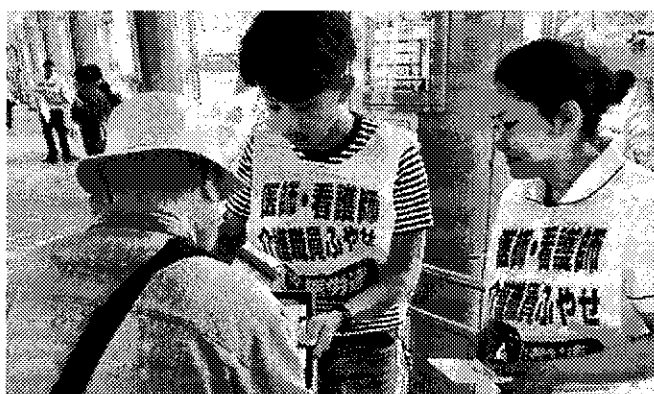


腰痛対策の学習会

学習会の講師は市立横手病院の理学療法士、小田嶋尚人さん。「腰は体の要です。痛くなる前に・・・ひどくなる前に・・・腰痛対策」と題して話しました。

日本看護協会によると、保健衛生業で発生する業務上疾病のうち8割が腰痛。看護師は腰痛があっても、休まず無理をしてしまう傾向にあります。小田嶋さんは「低い姿勢になる時は膝を曲げて、腰に負担をかけるように」と話します。「忙しいと思うが、ちよっと時間をかけて、自分の体を守る事が大切」と呼びかけました。

講演の最後に、みんなが「腰痛体操(職場でのストレッチ)」を実践。腰・背中・足をじっくりのばすと、「体が温かくなるね」「スッキリした」との声が上がりました。



たくさんの方が足を止めて署名してくれました